

## 「卒業式でのひとこまの尊い動き」

260303

今日、ある高校の卒業式に参列しました。1学年で280人くらいいる大きな学校でした。卒業式が終わり、卒業生退場となり、3年生全員がその場に立ち上がりました。すると、それまでの緊張感と急に立ち上がったことで、貧血？立ち眩（くら）みで、椅子を倒しながらその場で倒れてしまった男子生徒がいました。その時、すぐさま椅子を引いて、その生徒が横になれるようにする生徒。手を挙げて先生たちに呼びかけたり、呼びに動いたりする生徒。決して慌てることなく、その生徒を避けることなく、温かく見守りながら、退場のセレモニーの雰囲気崩さぬように、先生たちの処置を見守り、自分の退場を待っていました。養護教諭と思われる先生が、脈を測ったり、意識を確認したりするやり取りをするなかで、その生徒は意識がはっきりしたようでした。自ら立ち上がり、みんなと同じように退場することを選び、順番を待って自ら歩いて退場していきました。するとその倒れた生徒のすぐ後ろの生徒は、手を伸ばせば支えられる距離を保ちながら、寄り添うように退場していきました。まるで、その子が再び倒れるようなことがあっても、「しっかり支えるよ」と言うかのように、その後ろの生徒だけは、練習してきた距離ではなく、他の生徒たちが退場していく際の距離とは明らかに異なる近い至近距離でした。多分、倒れた後で必死の思いで歩いている前をいく生徒は、そのことには気が付いてはいなかったと思います。でも、そこには絶対的な友情、温かさがありました。

卒業式という特別な場で、想像できない突発的な出来事が起きたときに、生徒たちのなかで当たり前のように行われた、**誰も傷つくことのないように振舞われた、ごく自然で、尊い動き**でした。多分、後ろの保護者席では、全く気付くことのない一連の動きでした。生徒たちがその高校で、その仲間のなかで学んだこと、成長したことが表れたのだと思います。あってほしくないことではありますが、卒業式に出席したからこそ見るのができた光景でした。